

第32号

(2017年4月1日発行)

発行：中央大学学会 出版白門会

CONTENTS

(お名前は敬称略)

- ▽2017年新年会報告
- ▽学員交歓
- ▽泉谷 渉氏 新春講演会
「世界IoT大戦争の中でニッポンはセンサー、ロボット、メモリーで抜け出す」
- ▽出版白門会へようこそ…立石将太郎・中央大学出版部(山田義行)・渡邊秀康
- ▽「箱根駅伝予選会応援記」…竹林 聡
- ▽「ホームカミングデー・新海誠監督トークショーを聞いて」…北村 信治
- ▽第7回地図を通して知る東京「赤穂浪士凱旋の道・町を歩いた」…丹田 公和
- ▽「大阪食い倒れ」はすごかった～！…一戸 裕子
- ▽「同窓生の新刊紹介」
- ▽「第16回能楽鑑賞会に参加して」…北村 信治
- ▽「箱根駅伝への思い～中大の再起を願って～」…吉田 光雄
- ▽告知板
- ▽編集後記

出版白門会の関連行事予定

- ①第8回地図を通して知る東京
「馬込文士村を歩く(Ⅱ)」5月20日(土)
※詳細は、会員メールにてご案内いたします。
- ②出版関連セミナー
「デジタル教科書の現状」
4月26日(水)19:00～
会場：中大記念館550号室
※詳細は、会員メールにてご案内いたします。
- ③第18回定期総会・懇親会
7月19日(水)18時30分～
会場：日本出版クラブ会館2階 さくら
※後日、出欠確認を兼ねたご案内をお送りいたします。
- ④会報発行 10月1日(予定)
- ⑤箱根駅伝予選会応援 10月14日(土)
※詳細は、会員メールにてご案内いたします。
- ⑥ホームカミングデー 10月22日(日)
- ⑦第17回能楽鑑賞会
12月9日(土)12時開場 13時開演
会場：国立能楽堂(渋谷区千駄ヶ谷4-18-1) / JR千駄ヶ谷駅より徒歩5分
狂言 文荷(ふみにない) 茂山良暢(大蔵流)
能 隅田川(すみだがわ) 観世鏡之丞(観世流)
※「申し込み方法」「内容詳細」は10月発行予定の第33号会報に同封する、申し込みチラシをご覧ください。

■行事に関するお問い合わせは、下記メールでご連絡ください。
E-mail: pub.hakumon@gmail.com
なお、上記行事のほか、皆さまの仕事に役立つ企画、あるいは懇親の企画を検討中です。

学員交歓

■第16回出版白門会能楽鑑賞会に他支部関係者23名が参加

♣12月10日に千駄ヶ谷の国立能楽堂で開催された、出版白門会の年末恒例行事「能楽鑑賞会」に、出版白門関係者23名の他に、他支部からも23名の方が参加されました。公演鑑賞のあとの能楽堂のレストランでの懇親会は、「白門三九会」「国立白門会支部」「飯能白門会」との世代、地域を超えて集まった白門の仲間同士の気が置けない交流で、図らずも楽しく、賑やかな忘年会となりました。

■卒後35周年記念・第14回白門57ネット新年賀詞交換会に参加しました

♣1月21日(土)16時より、表記の会が中大記念館で開催され、出版白門会も来賓として参加しました。賀詞交換会に先立ち、一昨年の出版白門会新年会で講師をお願いした濱 嘉之氏による「執筆活動と世の中の動き」という講演会が開催されました。奇しくも前日のトランプの大統領就任で、混沌とした世界情勢が憂慮される状況の中での講演は、アメリカ、中国、韓国、ヨーロッパと多岐にわたる同氏独自の情報を基にした分析で、きわめてタイムリーで興味深いものでした。その後の、「白門1984会」からの来賓2名も交えての、会場を近くの「げんない」に移しての満席の懇親会では、白門同窓の賑やかな交流が遅くまで続きました。(広報委員会・丹田)

出版白門

● 出版界に出版白門の知恵と情熱を！ ●

●基本方針

1. 会員ニーズに応える活動による、会員満足度の向上
2. 中央大学、学員会、他支部との連携強化
3. 会費徴収促進による、財政の健全化

2017年新年会報告

1月20日、底冷えのする寒さの中、東京・新宿区の日本出版クラブ会館において41名出席のもと、新年会が開催された。第一部は、国内最古参の半導体記者であり、産業タイムズ社社長の泉谷渉氏(1975年法学部卒)を講師に迎え、「世界IoT大戦争の中でニッポンはセンサー、ロボット、メモリーで抜け出す」とのタイトルで、トランジスタの黎明から、第四の産業革命であるIoT(モノのインターネット)までをわかりやすく解説し、具体的な会社名を挙げながら今後のセンサー分野の展望までの話を伺った。

泉谷氏の、マル秘情報満載の講演に、グイグイとひきつけられ、あっという間の1時間であった。講演

会終了後、泉谷氏の1月下旬発売の新刊『日・米・中IoT最終戦争』は用意していた20冊をあっという間に完売した。

第二部の懇親会は朝妻副会長の乾杯でスタートした。初参加者紹介では、今回から会員となった中央大学出版部の神崎常任理事、山田副部长をはじめ、ウキンダムの渡邊社長、そして、3月に卒業しトーハン入社予定の立石さんの4名の自己紹介に、大きな拍手が送られた。

続いて、恒例の新春ビンゴ大会、吉例の土屋事業委員長の歌唱指導による校歌斉唱と続き、最後に風間副会長の中締めで名残を残しつつお開きとなった。



能楽鑑賞会懇親会



57 ネット賀詞交換会

出版白門会ホームページアドレス <http://pub-hakumon.jimdo.com/>

facebook 出版白門会サイトへのアクセスは検索サイトの「出版白門会(中央大学学員会職域支部)」から…

泉谷 渉氏 新春講演会「世界IoT 大戦争の中でニッポンはセンサー、ロボット、メモリーで抜け出す」

今年の出版白門新春講演会は1975年法学部卒で現・産業タイムズ社社長の泉谷渉氏を講師にお迎えし、標題のご講演を頂いた。

「私は業界のトランプと言われていました。暴言、放言、下劣な発言で、現在、3ヶ月出入り禁止のレッドカードを10枚、1ヶ月出入り禁止のエイローカードを30枚ももらっています」との刺激的な自己紹介で泉谷氏の講演は始まった。

氏の専門は半導体という事で、まずは半導体の黎明期、トランジスターの話は及ぶ。後世、計り知れない影響を世界の産業界に及ぼした世紀の大発見も、1948年に60社を呼んでのベル研の記者発表では、わずかにニューヨークタイムズが10行ベタでラテ欄に取り上げたのみというありさまで、当時は全くトランジスターの価値が分かっていなかったという。そんな中で、東京通信工業（後の「ソニー」）という小さな会社の井深という男だけが、その価値が分かってきたことが、その後のソニーの大躍進に繋がって行く。このソニーの例にとどまらず、ICを最初に使ったのはシャープの電卓であり、トランジスターもICも全部その発展の基礎を作ったのは日本人。世界初のマイクロプロセッサも日本ビジネスコンピューターという会社が設計したものであり、パソコンの基礎も日本人が作った。ことほど、日本人は基礎的な発明は弱いかもしれないが、応用開発は世界でも抜きん出ていると泉谷氏は語った。

しかし、このような赫々たる戦果をあげ、大躍進してきた日本のIT産業界も、この10数年間負け続けたと、その惨状の報告が次に続く。1990年代に53%の世界シェアを取り、半導体王国と言われた日本も、現在のシェアは10%くらい。液晶も1990年代は世界シェア80%と圧倒的な強さを誇ったものの、今では5%。パソコンでも負け、スマホでは米国、韓国、中国に叩きのめされていく。日本は電子機器、家電、半導体から液晶に至るまで凋落を続け、悔しい思いをしてきた。

しかし、これらのIT産業界は、実は完全に成熟化してしまっておりパソコンに至っては2度と伸びることはないと言っている。泉谷氏は言う。そして、それに代わって出てきたものがIoTであると、いよいよ本講演の本題に話は進む。

「すべての物と事をインターネットでつないで、社会のインフラが全部革新するというのがIoT革命」であり、第四の産業革命といわれるもの。

これまでは、パソコンとスマホとだけつながっていたものが、受信センサーモジュールをつけることによって、すべての物と事が、いつでもどこでもネットに入っ

て、ネットで動かすことができる。

この間、人が一切関知せず、ロボットとセンサーで動かすのがIoTの世界。

例えば、老朽化が進み危険な状況に至っている全国の橋やトンネルに全部センサーモジュールをつけることにより、人を介することもなく、現場の状況が伝わってくる。

すべての物と事に繋がるこのIoTのマーケットは、泉谷氏の推定では360兆円という膨大な額。現在、産業別の市場の規模は、エネルギー1,300兆円、医療520兆円、食品産業約350兆円、自動車約350兆円、IT・150兆円とのこと。当然のことながら全部インフラに係る産業。

すべての物が全部ネットにつながる例として「スマートブラジャー」の話が紹介される。このセンサー付きのブラジャー、生体信号を24時間、365日、常にスマホ、パソコン、病院へ送信するという。

話は、このIoTというこれから誕生する巨大市場と日本の産業界の関係にすすむ。

IoTに係る産業界を見た時、上流のパソコン、サーバー、AIなどはアメリカが圧倒的に押さえていて、日本はとてども太刀打ちできない。それにつながるアマゾンやグーグルの世界もアメリカが圧勝。アメリカが脳科学に使う予算は2兆円、それに対し日本は1千億円という金額で得々としていると泉谷氏は言う。中流のテレビ、パソコン、端末も日本は取れず、下流の電子デバイスでは半導体が世界シェアの10%くらいという事で、これも取れない。しかし、日本が取れるものがある。センサー、ロボット、半導体メモリーである。

今はクラウド→パソコンという集中制御の時代で、ここではサムソンなどがすごさを発揮して、パナソニックの3倍の20兆円の売り上げを挙げている。ただ、留意しなければならないのは、この売り上げには日本の半導体及び電子部品が1兆5,000億円使われていること、装置まで入れると2兆5,000億円の日本製品を使用しているとの事である。なお、日韓関係はメディアで語られる険悪な関係とは裏腹に、経済面ではもう切ることのできないズブズブの関係になっていると、安倍、朴槿恵会談の裏話などを交えた氏の解説も興味深い。また、このことに限らず外国の製品には大量の日本製品が使われており、単純に会社の売り上げだけで判断してはいけないと、氏は言及する。

話は、長らく低迷を続けてきた日本の産業界がIoT革命の到来でなぜ復活するのかという事に進む。一つは集中制御から自律分散制御への変化である。一つ一つのソフトウェアとか電子部品は全部カスタムになり、その結果大量生産から多品種少量生産になる。これを最も得意とする国は日本である。それぞれの機器には半導体が仕込ま

れ、機器自身が自分で判断する。ソニーのCMOSイメージセンサーはそこでは人間の目の働きをする。

もう一つの日本の強みは、IoTの基本システムがアジャイルシステムという「暗黙知」を使う事で、これは「曖昧、空気を読む」など、まさに日本的なシステムであるという。これまでのシステムは、イエスカノーで処理するノイマン法だが、人間の脳はノイマンではない。また、人間の脳は同時並行処理ができるのに、半導体ではこれができない。日本は「暗黙知」でもう一度立ちあがる。

日本のもう一つの強みは、センサー。

人間の五感にあたるセンサーの日本の世界シェアは50%。CMOSイメージセンサーで言えば1億画素で1,000兆分の顔もくっきり見える技術を持つ、ソニーがぶっつきり強い（世界シェアの約50%）。

0.005ルクスでも撮影が可能なセンサー技術を持ち、完全自動走行の自動車1台に同社のセンサーカメラが24個も使われるという。他のセンサーで言えば、血圧計はオムロン、振動、触覚センサーは日本電産、磁気センサー（TMRセンサー）はTDK、温度センサーはチノー等々、センサーの世界では五感が世界一鋭い日本人が勝つ。

次の強みはフラッシュメモリー。これまで主要記憶媒体の9割はハードディスクだったが、これが2020年までにはフラッシュメモリーに全部変わり、IoT時代の花形になる。この分野のトップはシェア40%の東芝。しかも、700製作工程が必要で、回路の設計図を髪の毛の1,000分の1の細さで書き込み、小指の大きさにA4、40万ページが入ると言う、外国が追従できない高度の微細加工技術を持っている。東芝は2月着工で四日市に1.5兆円かけて新工場を建て、更に来年にはもう一棟建てる。最終的に20棟が必要となる。データセンターが実現したらいよいよ東芝が抜け出すとの事。

もう一つの日本の強みロボットは、現在世界シェアの60%。現在の1.5兆円は10兆円まで行き、その間日本のシェアは揺るがない。どの分野をとってもロボットは日本が世界一。日本は世界の最先端技術を持つ半導体、機械工学、センサー、ケミカル等々、35の技術分野で全部世界のトップを取っている。総合芸術といわれるロボット産業は日本の独壇場となる。

人型ロボットも少子高齢化社会に世界のトップを切って突入した日本だからこそ伸びてくる。泉谷氏は最後に「負け続けた日本だが第四の産業革命IoT時代の到来で、センサー、ロボット、メモリーの三つを武器にして、再び立ち上がる」と力強く締めくくった。それは年頭の講演にふさわしく、聞者者に元気を与えた。（丹田）

出版白門会へようこそ

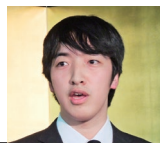
(アイウエオ順)

立石 将太郎 (たていし しょうたろう) トーハン (入社予定) 2017年 文学部卒

この度、中央大学出版白門会に参加させていただきました。今春トーハン入社予定の立石将太郎です。

昨年入会しました古寺先輩からご紹介いただきました。今回参加させて頂く運びとなりました。偉大な諸先輩方の参加なさっている会に参加でき大変光栄に思っております。是非、同期入社の中大卒の者たちにも参加してもらおうと思っております。

出版業界をより良くしていこうという気持ちに溢れています。どうか皆様方におかれましては、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



山田 義行 (やまだ よしゆき) 中央大学出版部 1989年 商学部卒

本来は、卒業生個人が加入する学員会職域支部に法人として加入させていただいたことに感謝しております。今後は、幹事業務の補佐を担当させていただき、会の運営に貢献できればと思っております。また、中央大学出版部は、皆様の母校にある版元ですから、会員皆様からの忌憚ないご意見・ご指導・ご鞭撻をいただければ幸いです。よろしくお願いたします。



渡邊 秀康 (わたなべ ひでやす) 株式会社ウキンダム代表取締役 1968年 経済学部卒

渡邊氏は今年で30年目を迎えます。今までに、阿修羅展、戦国時代展、龍馬特別展等・国立博物館、江戸東京博物館等の「美術展」の広報事務局を700展以上担当しています。展覧会や新商品のPR等記者発表は年間約50回。今や、広告・宣伝の時代から、広報・PRの時代です。新刊の書籍のPRや新商品発表の時には、是非お声をおかけください。効果が大きい割に格安の料金で実施が可能です。落語研究会出身です。落語関係の仕事など何でも引き受けます。



箱根駅伝予選会応援記

竹林 聡

2016年10月15日、立川で伝統の襷が途切れた。

藤原新監督の起用、1年生主将の抜擢と再建の為の布石は打たれたはずだった。

そして、昨年(2015)の、予選会後に、野村陸上部長が宣言した「2020年には優勝」に向けた新たなスタートと、大きな期待を持って応援に臨んだが...

結果はご承知の通り、10位の日大と44秒差の11位と涙を呑んだ。メンバーの中では15位の町澤が最上位で、他に100位以内には3名しか入れない、これが現実であった。ゴール地点手前で、丹田さんと二人、Cマーク全選手の通過を見届けたが、「これはダメだ」と実感した。もっと下位

に沈んでいたら、却ってあきらめもついたが、「一人5秒削っていたら」と無念さが募った。

連続出場回数は「87」で途切れたが、出場回数「90」、優勝回数「14」はまだ生きている。



船津主将の「自分たちはこの日を忘れることはありません」との誓いを、我々OBもしっかりと受け止め、出場「91」、そして優勝「15」という新たなカウントが刻まれる事を信じて、今年もリベンジの地、立川に再び向かおうと思う。

順位	大学名	記録
1	大東文化大学	1/0時00分59秒00
2	明治大学	1/0時01分00秒00
3	創価大学	1/0時01分01秒00
4	法政大学	1/0時01分02秒00
5	神奈川大学	1/0時01分03秒00
6	上野学園大学	1/0時01分04秒00
7	拓殖大学	1/0時01分05秒00
8	国学院大学	1/0時01分06秒00
9	国士舘大学	1/0時01分07秒00
10	日本大学	1/0時01分08秒00
11	中央大学	1/0時01分09秒00
12	城西大学	1/0時01分10秒00
13	東京農業大学	1/0時01分11秒00
14	南都大学	1/0時01分12秒00
15	東京国際大学	1/0時01分13秒00

「ホームカミングデー・新海誠監督トークショーを聞いて」

北村 信治

秋晴れの中、アニメ「君の名は。」を手掛けた新海誠監督のトークショーが9号館(クレセントホール)にて行われました。第1部は前作品(2013年度)の「言の葉の庭」(46分)を鑑賞しました。私自身、監督の作品はこれが初めての鑑賞となりました。アニメの映画という括りでいえば宮崎駿監督が手掛けた「ジブリ作品」が有名でも「風の谷のナウシカ」という作品のインパクトがありました。「ジブリ作品」と言えば一言で「空想の世界」を表現していると思います。今回の「言の葉の庭」という

作品は「アニメでありながら現実の世界を上手く描写している」ことです。シーンとしては「実写」(俳優が演じる)でも可能だとは思いますが、そこをアニメで表現し受け手に繊細な描写を提供しているところに驚きを隠せなかった。

第2部の新海誠監督と川田十夢氏(学員/商学部卒)とのトークショーでは、お互いの自己紹介を交えながら監督自身が「ジブリ作品」との差別化、ご自身が育った(長野県)景色や高校への電車通学時の風景を織り込んでの作品作りが基になっている...

といった映画にかける思いを語っていました。また監督は「自分はアニメーターでもデザイナーでもなく、小説を執筆したことから映画製作に入って現在がある」点を強調され、自分を取り巻くスタッフの皆との協同で作品ができたコメントされていました。

監督のお人柄と作品が非常にマッチしており、私自身これから最新作の「君の名は。」を鑑賞したくなりました。

第7回 地図を通して知る東京 ~赤穂浪士凱旋の道・町を歩いた~

丹田 公和

3年越しの本企画が実現した11月12日は、心も弾む絶好ウォーキング日和だった。

集合場所の両国駅では、企画者である小竹正倫さんから詳細なコースガイドと地図、更に当日のボランティアガイドを引き受けて下さった白門三九会の中山秀己さんからもガイド冊子と音声ガイド用のイヤホンまで全員に配布された。準備万端整い、最初に訪れたのは両国駅近くの回向院。討ち入り後、赤穂浪士が最初に向かい、そして門前払いされた寺である。浪士には冷たかった寺ではあるが、境内には江戸の戯作者等の文化人や、鼠小僧の墓までがある由緒ある寺である。回向院を出て、順序は逆になるが同寺の裏手にある吉良邸跡へ。

邸の跡と言っても、敷地面積2,557坪あったという吉良邸の跡はなく、吉良邸の炭小屋あたりではないかと言われるところに、吉良上野介と討ち入りの日に犠牲になった吉良の家臣20名が慰霊された、小さな公園があるのみ。上野介の像の前では、中山さんより、浅野家の歴史を始め、刃傷事件の起因についての諸説、内匠頭が吉良を打ち損じた理由についての、乃木希典や海音寺潮五郎の指摘等、興味深い「講義」を聴

講した。

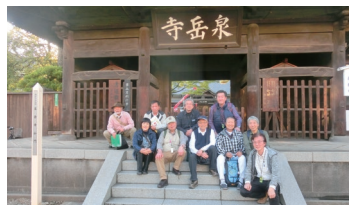
吉良邸跡の松坂町公園を出て隅田川沿いを南下し、芭蕉記念館と芭蕉庵史跡展望庭園で芭蕉の事績に触れる。さらに南下し浪士一行を甘酒でねぎらったという乳熊屋味噌店の後に建つ乳熊ビルに寄る。今でも会社として残っているのがすごい。

浪士が歩いたように、同ビルの近くの永代橋で隅田川を渡る。内蔵助が、当時一般的なコースであった両国橋を渡らず、永代橋を渡って町人の町に出るコースを取ったのは、武家屋敷街を通過して、不測の事態が起こることを懸念したからだということだが、確かに、この間歩きながら、隅田川に沿って、裏道、裏道と歩いていることを実感した。そんな感慨を抱きながら、浪士たちが横を通った鉄砲洲稲荷神社にお参りし、浅野家上屋敷があった聖路加病院を目指し歩く。途中、昼食で立ち寄ったレストランでは、ビールと飲み放題の白

インで軽く喉を潤しながら、ここまでの話題で賑やかなランチタイムとなった。

昼食後は、その先の聖路加国際大の敷地の角で、「浅野内匠頭屋敷跡」の石碑を確認。と同時に、この一帯が慶應や立教、青山学院の発祥の地であったというガイド板の説明を読み意外だった(箱根駅伝でやられっぱなしの青山大学の源流の一つが、「海岸女学校」という女子校だったのは、ちょっとしたショック)。その後、外人観光客で賑わう築地本願寺で、赤穂浪士ゆかりの碑をお参りした後、東銀座駅から泉岳寺に出て、四十七士の墓参りで街歩きを終了する。

とは言え、一行が浜松町に出て賑々しく反省会を挙行したのは言わずもがなである。



泉岳寺山門前にて



公園になっている吉良邸跡

「大阪食い倒れ」はすごかった~!

一戸 裕子

昨年9月に出版白門会の面々で天下の名湯、赤褐色の有馬温泉に一泊した。太閤秀吉も愛した名湯と名酒を堪能し、さて翌朝は「ゴルフの会」と「大阪食い倒れの会」に分かれて出発した。

私はもちろん食い倒れ組。B級グルメ博士の高木さんの厳しいスケジュールに従って、朝食を終えたばかりの10時から、通天閣で串カツに挑戦。2度づけ禁止を忠実に守りながら食べたハムカツとタマネギは、なんとも美味しかった。続いて12時には道頓堀でお好み焼き。これぞ大阪、美味しい!ネギやスジのお好み焼きは絶品

だし、焼きそばにご飯の混じった「ソバメシ」も美味しい。B級グルメの極致である。

さてまだまだ食は続く。通りすがりに「たこせんべい」を注文。たこ焼きをえび煎餅ではさんだものだが、この煎餅が人の顔ほど大きいのだ。何とか食べると、その次は法善寺横丁のお汁粉だという。風情あふれる水掛不動さんにお参りして、お汁粉に挑戦。

さすがにもう限界だと胃を撫でていると「お三時は焼肉で〜す」という声。こうなればもう、こちらも開き直るしかない。死ぬ気で食べるのみである。

鶴橋という駅に降りた。驚愕である。焼肉の匂いが駅のホームまであふれ返り、焼き肉店やモツを売る店が延々と並ぶ。これはすごい!焼肉店に入ってどんどん肉を焼く高木さんに、私と島崎さんは脱帽。見事な食い倒れの旅だった。

ゴルフ組との再会は大坂駅。暑い陽射しの中で、真面目にゴルフに取り組んだ大阪赴任中の市川さんや阿部さんや朝妻さんなどの一行と、食い過ぎの我々が合流して、あとは一路東京へ。出版白門会はやっぱり楽しい。

同窓生の新刊紹介

『日・米・中 IoT 最終戦争』

泉谷 渉 著 東洋経済新報社

価格：本体 1,500 円＋税

本年の新年会で講演をしていただいた、泉谷氏の最新刊（2017年1月発行）である。80年代、日本はものづくりの力によって「ジャパン・アズ・ナンバーワン」といわれ、自動車、家電製品、半導体などのハイテク分野でも世界の市場を席巻していった時代があった。当時、日本経済の未来は光り輝いているように見えた。しかし1990年頃には世界の53%を占めていた日本の半導体

も現段階では12～13%、圧倒的な強さを誇っていたテレビや白物家電もすっかりその地位を中国、韓国、台湾に奪われ、日本は凋落の一途をたどっている。

だが悲観するなかれ、本書では、第4の産業革命と言われる「IoT時代」の到来により、日本は大復活し一気に抜け出すと論じている。綿密な最新取材に基づく論考は日本の読者、産業人を大いに元気づけさせてくれる。

来たるべき「IoT時代」では、センサーとロボット分野が極めて重要なポジションを占めるが、日本はいずれの分野でもめっ

ぽう強い。日本人の優れた五感に裏打ちされた、モノづくりにおける「匠の技」が「多品種少量生産」「多品種変量生産」が主流となる「IoT時代」において、その特性をいかんなく発揮する。そこはコピー上手な他国も追従できない、日本独特の領域であると説く。日本の未来に光を見出し、勇気を与える1冊である。



第16回能楽鑑賞会に参加して

師走は10日の土曜日、天候に恵まれ「第16回能楽鑑賞会」が行われました。

前回より参加者が増え、国立能楽堂の「GB席」という囲まれた部分を全席貸し切りといった具合で

狂言～縄綱 善竹十郎（大蔵流）
能～胡蝶 木月孚行（観世流）を鑑賞しました。

狂言は現代でいうところの「お笑い」に相当します。ですので、随所に笑いが起こります。

能は観世信光没後500年という記念の内容で30分ほどの解説をうけ鑑賞に入り

ましたが…途中気持ちよくなり失礼ながらもスリーピングモードになりましたが、例年になく見入った感じでした。

梅の花に縁のないことを嘆いた蝶が、都の梅の名所で梅花に出会い、喜びの舞を



舞う、という詩的な内容でした。

鑑賞後は場所を能楽堂内のレストランに移し懇親会を開催しました。今回は出版白門会と白門三九会他のメンバー総勢46名で楽しい年末のひと時を過ごしました。



箱根駅伝への思い～中大の再起を願って～

正月の風物詩と言えば、まず箱根駅伝を思い浮かべられる方々も多いのではないのでしょうか。特に中央大学の関係者にとって、あの純白のランパン、胸の深紅に染められたCマーク、肩から掛けられた深紅の襷は、数々の驚きや感動のドラマを共有してきたと思います。

しかし、本選出場を逃した今年の正月、私たち中央大学関係者は、さまざまな思いで過ごしたのではないのでしょうか。

今年で93回目を迎えた箱根駅伝、中央大学は、この歴史ある大会で、昨年までなん

と87回連続出場（歴代1位）を維持してき、その間、驚異の6連覇（歴代1位）を含め、優勝回数14回（歴代1位）、区間賞獲得数（歴代1位）など数々の記録を樹立し、まさにこの大会の歴史の中核を担ってきました。

今年の世界選手権男子マラソン2度出場を経験した藤原正和新監督のもと、1年生を主将・副将に抜擢し、捲土重来をはかったにもかかわらず思うような成果は得られませんでした。今年、苦汁を味わった監督や1年生も二年目を迎えます。大胆な改革も予想され、監督の意気込みも並々ならぬもの

が感じられます。ぜひとも本選出場を果たし、“あの改革があったからこそ”との評をしたいです。

奥美濃育ちの私が子どものころの正月の風物詩と言えば、「かるた」、「百人一首」、「トランプ？」が定番、それはそれで趣のある正月でした。「87（はな）の色は、うつりにけりな いたずらに」、「しず ころなく 87（はな）の ちるなむ」、「87（はな）のいのちは 短くて」、がトラウマにならぬよう願っています。

吉田 光雄

告知版



■2016年の新年会でご講演いただきました、木内昇氏の新聞連載「万波を翔る」が2月20日から日経新聞夕刊で開始されました。

■2015年の新年会でご講演いただきました、濱嘉之氏の著作が累計で200万部を突破し、「祝う会」が2月19日上野精養軒で開催されました。

■出版白門会理事の森武文氏は、2月21日の講談社株主総会及び取締役会において同社の副社長に昇任されました。

■①出版白門会ホームページのご案内

アドレスは<http://pub-hakumon.jimdo.com/>です。GoogleやYahooといった検索サイトで「出版白門会」を検索すると上位にヒットしますので、そこからのアクセスも可能です。最新の活動情報などを更新していますので、是非アクセス下さい。

■②出版白門会事務局へのご連絡は下記メールアドレスをご利用ください。

E-mail:pub.hakumon@gmail.comです。

■会費納入のお願い（年会費金額¥5,000）

①同封の振込用紙にて、もしくは下記口座へお振込みをお願いいたします。

郵便振替口座記号番号 00180-8-600659

加入者名 中央大学学生会出版白門会

振込用紙がなくても、直接郵便局の窓口やATMでも手続きができます。ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方は、ゆうちょダイレクト（パソコン、携帯、スマホなど）もご利用いただけます。

②他行（銀行など）からの振込みをされる場合は下記口座をご指定のうえ、手続きして下さい。

ゆうちょ銀行 当座預金

店名（店番） 〇一九（ゼロイチキユウ）

口座番号 0600659

口座名義 チュウオウダイガクガクインカイシュツパンハクモンカイ

出版白門会は皆様の会費のみで運営しております。ご協力のほど何卒よろしく願いたします。

編集後記

新年会・新春講演会当日は中座をしてしまい申し訳ありませんでした。

当日の17時ごろに「息子が怪我をした！」との一報を受けました。

中学受験の10日ほど前の怪我は息子にとって大きな障害になりました。

怪我の具合から新年会・新春講演会への参加は大丈夫だろうと考えていましたが、学校から「加害者とその両親が謝罪に伺うので対応してほしい」と。

怪我から2か月弱、息子は逆境に耐え落ち着くところに落ち着きました。ですが、終わらないのは事件処理。キーワードは「他人事」と「当事者意識」。世知辛い社会なのか前者が優越。私は何事にも後者を真正面と考えています。

（北村）